

安心して暮らせるまち 小平

授産施設「ほっぷすてつぷ」完成

地元産食材を加工

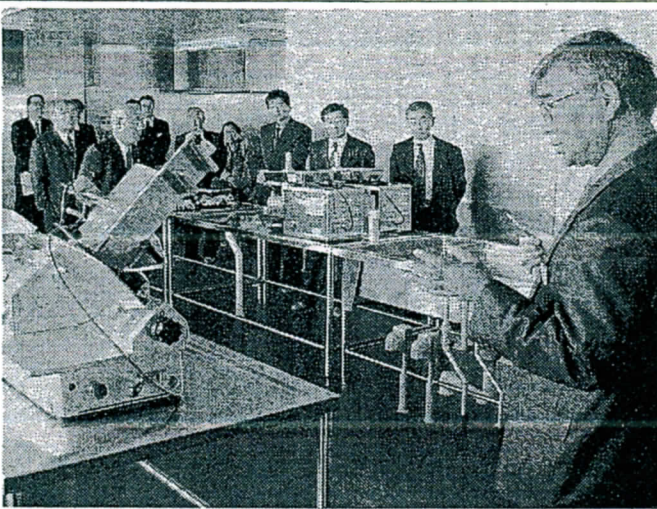
障害者の働く拠点に

【小平】知的障害者の町立授産施設「ほっぷすてつぷ」

(大沢邦昭施設長)の完成式が一日、鬼鹿田代の現地で行われた。小平産の黒毛和牛の肉を使ったハンバーグや地元の魚介類の加工などを通じて、障害者二十人が地域で働く拠点となる。

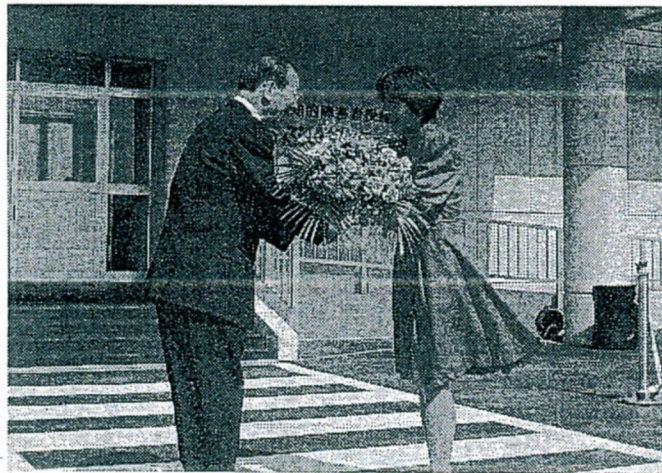
「ほっぷすてつぷ」は町が昨年度、約三億三千万円をかけて建設し、運営を社会福祉法人新学生会に委託する。鉄筋コンクリート平屋七百八十二平方メートル、職員六人。一日から作業を始めた。完成式では、横浜磨町

長、沼田隆志・留萌支庁を十分に發揮して大きく副支庁長らが「地元産の食材が使われ、地域と一体となった取り組み。機能に続いて、利用者代表の



ハンバーグを作る部屋を案内する大沢施設長(右)

平田康子さんが、横浜町長に感謝の花束を贈った。このあと、大沢施設長が内部を案内した。ハンバーグは、町内の農家で飼育している黒毛



利用者代表から花束を受ける横浜町長(左)

和牛の肉と、隣接する知的障害者入所施設「おにしか更生園」の布団を洗うの協力で、町内外の一人暮らしのお年寄りの布団洗い受注を目指す。働くのは、おにしか更生園を出てグループホームや住宅で暮らす障害者たち。「小平のお土産は自分たちが作っているというプライドを持っているようにしたい」と、大沢施設長は抱負を述べた。